

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います。

# まほろば



2015.12・2016.1  
第172・173号

## 新年のご挨拶



新年あけましておめでとうございます。  
この冬は例年になく雪の少ない穏やかな天候に恵まれ、清々しい新年をお迎えのことと存じます。

国立病院機構は昨年の4月に民営化の第一歩を踏み出しました。“公務員型の独立行政法人化”から“非公務員型の独立行政法人化”に変わったもので、名称は国立病院のまま、身分はみなし公務員（非公務員）になりました。実態は従来と変わりませんので引き続きご支援、ご鞭撻の程、よろしくお願ひいたします。

昨年は近隣病院で一部の医療が縮小したため、外科・小児救急、分娩数が大幅に増加しました。増加傾向は今年も続くだろうと思われますが、二次輪番制度の維持に少しでも寄与できればと考えています。

手術件数では乳腺外科の件数の増加が目立ちます。当院での乳腺外科創設から3年が経ち、徐々に認知度が上がってきたようです。乳房再建のエキスパンダー実施施設にも認定されており、乳房再建のファーストステップにもご利用下さい。

耳鼻咽喉科は昨年4月から常勤医の不在が続いています。弘前大学から外来医師を週3日派遣していましたが、10月からは月・木の週2日に縮減し、皆様にご不便をおかけしています。来年度に常勤医が復活することを期待しています。

当院の理念「生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います」実現を目指し職員一同努力してまいります。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

院長：佐藤 年信



# 新しい年に -2016年申年-

平成 28 年(2016 年)、今年の干支は「申(さる)」。「丙申(ひのえさる)」です。「申」は、「樹木の果実が熟して固まっていく様子」を表すとされています。

「申」=「猿」で思い出すのが大分市の「高崎山自然動物園」のおサルさん達。雄は冬、雌は初夏に行われていたおサルの選抜総選挙、2016 年は初の W 選となります。雄については、名前・経歴一切紹介なしの写真のみでイケメンぶりを競います。なんと今回は年男の園職員も立候補。果たして「ヒト」は「サル」を超えるのか。結果は 1 月 17 日発表です。

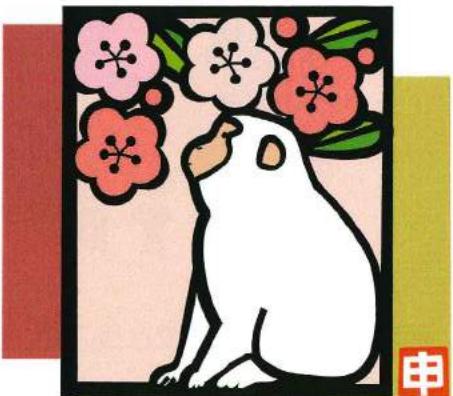
「申」年生まれの「ヒト」代表としては、豊臣秀吉、石田三成といった戦国武将を始め、役所公司さん、久米宏さん、桑田佳祐さん、長渕剛さん、壇蜜さん、又吉直樹さん…とにかく数多くの芸能人の方々、サッカーや野球等プロスポーツ選手、挙げたらきりがありません。ポジティブで盛り上げ上手、頭

の回転が速い、しかし「クセモノ」。これが特徴だそうです。

さて、「申」年の一代様(自分の生まれ年の干支を守り神とする、藩政時代から続く津軽地方の信仰)は、南津軽郡大鰐町「大鰐の大日様」大円寺です。本尊の大日如来は、人智を超えた果てしなく大きく尊い存在とされ、絶対に傷つくことのない智慧と、無限の慈悲の象徴です。

今年一年、皆様にとってますます良い年になりますように。

地域医療連携係：工藤 真淑



## 第44回 ひろさき周産期医療連絡会



11月7日弘前大学医学部臨床小講義室にて第44回ひろさき周産期医療連絡会を開催しました。今回は当院の小児科及び産婦人科から入院した患者様の内容を分析して発表いただき、弘前大学産婦人科からは子宮破裂のリスクの高い子宮筋菲薄化症例を報告いただきました。当院の分娩数は増加

の一途をたどっており、負担の大きいことから青森県として本年 10 月から弘前大学附属病院を地域周産期母子医療センターと認定し津軽地区は当院と大学病院で周産期医療を担うことになりました。特別講演は県内でただ一人の新生児専門医である青森県立中央病院新生児科の池田智文先生に極低出生体重児の急性期管理について新生児で用いられる圧縮脳波(aEEG)所見、内大脳静脈の血流波形の評価も参考にしながら循環管理を行っていくというきめ細かな管理を教えていただきました。昨年よりも出席者が増え議論も多く実りの多いものとなりました。

小児科部長：杉本 和彦

# ストップ・ザ・ノロウイルス

食中毒は夏だけではありません。  
ウイルスによる食中毒が冬に多発しています！！！

## ノロウイルスとは？

- 二枚貝（カキ、ホタテ等）の内臓に多く蓄積
- 日本の食中毒原因のトップ
- 感染力が非常に強い

## 症状

- 下痢、嘔吐、吐き気、腹痛

## 感染経路

- 食品を介して
  - ・汚染された二枚貝を生で食べて
  - ・調理器具を介して
  - ・調理者の手指を介して
  - ・食材の加熱が不十分
- 二次汚染
  - ・トイレでの感染
  - ・嘔吐物からの感染



## 予防のポイント

### 1 健康管理

- ・食品の鮮度に注意
- ・十分な睡眠、バランスのよい食事



### 2 手洗い

- ・調理前後、トイレの後、食事の前はしっかりと
- ・指先、指の間、手首なども丁寧に



### 3 消毒

- ・85~90°Cで90秒以上の加熱を
- ・調理器具は『次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）』で消毒を



※厚生労働省等ホームページより

栄養管理室長 野呂直子

# 防災訓練

11月17日、震度6強、窓ガラスが割れ落下物やベッドからの転落による負傷者が3名発生し、5階病棟の機能が失われ避難が必要になったという想定のもと、防災訓練が実施されました。地震発生後は自分の身の安全の確保、患者の安全確保、被災状況の把握に努め、スムーズな報告体制が取れたと思います。その後本部からの命令で負傷者を応急救護所に搬送し避難誘導に当たりましたが、

指示の意図が上手く伝わらず混乱を伴い課題も残した内容でした。

私は4年前仙台で東日本大震災を体験しましたが、自分たちの役割を遂行し、お互い声をかけ協力し合って対応できたことに、日頃の訓練が活かされていると感じました。震災の教訓から訓練を重ね、全職員が連携して対応できるよう今回の学びを活かしていくかなければならないと思いました。

5階病棟看護師長：新井谷 敦子



# 第10回北東北国立病院医療研究発表会

平成 27 年 11 月 21 日（土）秋晴れの中「第 10 回北東北国立病院医療研究発表会」が開催されました。当日は、北東北の国立病院機構病院 5 施設、松丘保養園から 72 名の参加がありました。前回の発表会では口演発表がなく寂しく感じおりましたが、今回は 4 題の口演と 8 題のポスターセッションがあり、各職種それぞれの取り組みや研究活動の発表に対し、フロアーカラは積極的な質疑応答・意見交換がされました。ポスター発表 55 題からは、

各施設の医療活動、臨床研究活動、政策医療、地域医療への取り組みが伝わり、有意義な時間を過ごすことができました。

今後もこの発表会が継続・発展することで各地域の患者様に、より良い医療の提供が行われることと思っております。第 11 回発表会は平成 28 年 7 月の予定となっております。多数の参加により、今後も更に活発な発表会にしていきたいと思います。

6 階病棟看護師長：清野 忍

会場：口 演 発 表・弘前病院地域医療研修センター  
ポスター発表・弘前病院附属看護学校体育館



# 外来診療一覧

◆外来医師診療一覧表 (2016年1月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹
呼吸器科		中川英之 下山亜矢子	山本勝丸 下山亜矢子	中川英之 下山亜矢子	山本勝丸 下山亜矢子	中川英之 下山亜矢子
		—	—	—	—	—
消化器・血液内科		鎌田耕輔 松木明彦 佐藤年信	鎌田耕輔 山形亮 —	鎌田耕輔 山形亮 佐藤年信	山形亮 松木明彦 —	鎌田耕輔 山形亮 佐藤年信
		石黒陽	石黒陽	—	石黒陽	石黒陽
小児科		杉本和彦 三上珠希	佐藤工 岡本剛	佐藤啓 三上珠希	佐藤工 岡本剛	杉本和彦 佐藤啓
外科		田澤俊幸	中井款	田澤俊幸	中井款	三上勝也
乳腺外科		小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	櫻庭弘康	小田桐弘毅
整形外科	午前	神裕道 近江洋嗣 工藤整	秋元博之 近江洋嗣 工藤整	秋元博之 神裕道 工藤整	休診 (手術)	秋元博之 神裕道 近江洋嗣
	午後	—	—	—	—	休診
脳神経外科		—	—	木村正英	—	—
皮膚科	午前	熊野高行 佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行	熊野高行
	午後	●予約	●手術／検査	●予約	●手術／検査	●予約
泌尿器科	午前	神村典孝	神村典孝	弘前大学医師	神村典孝	神村典孝
	午後	検査	検査	手術	検査	手術
産婦人科		谷口綾亮 阿部和弘	丹藤伴江 阿部和弘	丹藤伴江 田中加奈子	●妊娠健診 (一般外来休診)	谷口綾亮 松村由紀子
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		武田育子	—	—	山本洋平	—
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	—	—	川口英夫 (午後)	—	川口英夫 (午後)
女性専用外来		杉本菜穂子(※予約制／第1・第3火曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		—	—	—	今充	—

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

## 今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

広報誌編集委員会において投稿されました川柳の選出を行いましたが、今月は掲載まではいたりませんでした。来月号に期待をしております。

### 患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

### お知らせ

#### 編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital  
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：副院長 小田桐 弘毅

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地  
TEL 0172-32-4311  
FAX 0172-33-8614  
URL <http://www.aoi-mori.net/~hirosaki/>